

「自分らしく」を支える

東成育成園
管理者 平中 葉

4月1日、今年は例年より早く満開となった桜の下、新しい利用者、新しいスタッフを迎え、平成25年度の東成育成園がスタートしました。

東成育成園のホームページの巻頭には「自分らしく生きる」というテーマを掲げています。あたり前のことですが、このあたり前のことが知的障がいのある方には、あたり前でなかった時代が長くあります。

今は、あたり前でしょか。

私たち支援者の仕事は、障がいのある方の「自分らしく生きる」を支えることです。支援者の「これがいい」「こうしておけば間違いはない」という道を歩かせることではありません。

もう一度原点に戻って、東成育成園の支援の方針を確認したいと思います。

- 利用者が大人であることを常に意識し、大人としてのあたり前の生活に近づけるように支援する
- 利用者のもつ課題をさまざまな角度から検討し、その人がその人らしく暮らしていけるよう支援する
- 施設内の活動にとどまることなく、いろいろな社会資源を利用することで、社会の中の自分を意識し将来の自立生活への意欲を高める



平成25年4月公園朝礼

少し前まで施設は、できないことは、できないままにしている、その仕組みは守られてきました。今は、「施設」という建物にではなく、そこで行われる福祉サービス事業の「内容」に報酬が支払われるという制度となっています。スタッフ全員が福祉サービスの提

供者としての自覚が求められています。

そして、さらに手をつなぐ育成会の運営する事業所のスタッフとして、福祉サービスの利用者と提供者だけの繋がりにとどまらず利用者・保護者・スタッフがともに考え、学び、創りだせるような関わりを大切に、常に協力しあえる関係でありたいと願っています。

微力ではありますが、みなさまのご指導をいただきながら、スタッフ一同、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

事業所の枠を超えた支援体制の構築を目指して
港育成園 兼 港第二育成園
管理者 角森 佐岐子

この度、港育成園ならびに港第二育成園の管理者を拝命し、福島育成園より転任して参りました。よろしくお願いいたします。

港エリアでの勤務は14年ぶりになりますが、益々事業種は増え、事業の多さに比例し様々なニーズをお持ちの利用者様がいらっしゃることに、改めて責任の重さを感じております。

今年度の事業計画で、港エリアの構想について大きく2点掲げています。1点目は、前年度よりの検討課題であった施設機能の見直しです。なるべく早く一定の結論を出し、法人が運営するエリア内の事業所を統合的に運営し、利用者ニーズに沿った質の高いサービス提供を目指します。

港エリアには、知的な障がいがある人が地域で豊かに暮らし続ける為のサービスが展開されています。しかし、残念ながらそのサービスを横断的に使っただけのとは言い難い現実があります。それは、もしかしたら過去の業績にとらわれ、未来に向けての視点がぼやけているからかも知れません。それぞれのスタッフは、誠実で真面目に目の前の利用者様へのサービスに全力を尽くしています。でも、もっとやれる事、やらなければならない事、そして、もしかしたら手放すべき事もあるのかも知れません。今までの形にとらわれないサービスの提供と様々な経験と資格を持っているスタッフの有効活用をテーマに検討を重ね、より求められる事業所となっていけるよう努力してまいります。

2点目は人材育成です。サービスの質を上げるには

